

第53回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	岡田ゼミ	チーム名	凸京町
タイトル	多角的な視点から見る南京町とその実態		
テーマ群	d)国際経済 e)産業・企業 f)歴史・思想		
メンバー	長谷叡樹、園崎日香、川西美羽、時枝 結一、南雲大輝、拝野雄大、明石良太、中野宏人、安部愛成、竹内広太、		
研究計画内容	<p>【研究背景】</p> <p>我々のゼミでは「神戸における国際交流」をテーマとしている。国際的な接点が多岐にわたる港街「神戸」において、「南京町」は異国情緒を楽しめる人気スポットのひとつといえる。神戸という街は国際交流とともに歩んできた街であり、街のいたるところに異国情緒漂う風情が残されている。しかし、震災の影響もあり多くの国際文化残る歴史的遺産が消失してしまった中で、力強く復活を遂げた南京町は、我々の知りえない力を秘めているのではないかと考えた。我々はその事実を検証すべく南京町に実際に足を運び、南京町についての疑問を調査し、南京町の持つ国際交流の力について考察した。</p> <p>【研究内容】</p> <p>神戸にある南京町とは我々にとってどのような街であるかについて調べるために、歴史的観点、我々の南京町のイメージ、南京町運営母体の考えを調査する。我々は、南京町についてのオリジナルアンケートを作成し、大学生約 100 人による回答を集計し分析することによって、南京町についての一般的イメージを表面化させた。さらに、そのアンケート結果が事実に対応するものであるかを検証するために、南京町へのフィールドワーク調査を実施した。また、アンケート結果とその分析を南京町商店街振興組合理事長の曹英生さん（老祥記の 3 代目社長）と共有したうえで、意見交換し南京町の歴史的な面での神戸との関係や、アンケート結果に基づく我々の疑問の解消をはかり、南京町の持つポテンシャルを確認した。</p> <p>【期待される効果】</p> <p>本研究の目的は神戸と南京町の発展の根源を探し出し、国際交流の持つ力の大きさを明らかにすることである。南京町が発展する中でどのような困難に会い、打ち勝ってきたのか、また現時点で南京町が抱える問題とはなにか、さらなる発展のためには何が必要なのかについて研究した。本研究では国際交流の重要性や力の大きさを明らかにする。その力はこれからの神戸の発展に必要な不可欠なものだと考えられる。</p> <p>【参考文献】</p> <p>サイト名 熱烈歓迎 南京町 作者 南京町商店街振興組合 https://www.nankinmachi.or.jp/about/history/ 閲覧日 9月25日</p> <p>サイト名 神戸南京町 老祥記 ごみ箱デザイン募集 作者 老祥記 https://roushouki.com/competition/ 閲覧日 9月30日</p>		